

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年4月5日

事業所名 ひだまりのおうち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		体調不良か観察する必要がある児の場合、速やかに隔離して過ごしている	・物品が室内に多いので、都度整理を行う
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	レイアウトを適度に変えている	・子ども達が自ら使うものを取りやすいように整備する・まだ死角はあるので、子ども達の動きを把握する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1		・清掃が行き届いていない部分もあり、気付いたら速やかに行うようにする
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1		結果をきちんと残し、振り返りをする時間を設ける(毎日のカンファレンスを行う)
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		・保護者の意見を、定期的に聞ける場を作る(モニタリング時)
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		・事業所内には掲示しているが、今後はHPIにも掲載予定
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3		・運営会議の内容から、業務改善につなげていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	・いつでも話が出来やすい環境作りをしている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		・遠城寺式、乳幼児分析的発達検査表を用い、アセスメントの追加資料とする
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1		ガイドライン等は会議時にスタッフ内で情報共有を行う機会を作る
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			支援内容の具体的なイメージが出来ていない時もある。時々言葉で伝えていくように努力する
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2		子ども達の現状を把握しながら、それぞれの分野で意見を出し合い、計画を立てていく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	勤務中に行える時は行う	言えない場合は、書面で簡単に内容を伝える
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	・終了時間が違うため難しいが、残っているスタッフ間でのやりとりはあるので、ノートに記載している	記録表や、ノートを見返して、支援の検証・改善につなげている
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		専門的な視点から、もう少し細かく児の状態を記録していくよう心掛ける
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2		連携の機会をもう少し増やす
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	1		担当医、訪看とのコミュニケーションをもっととっても良いのではと考える
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1		必要な児童に関しては、今以上に回数を増やす
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	特別支援学校に赴き、児の食事介助方法など、情報共有した	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3		今後研修など積極的に受ける
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	5		コロナが落ち着いたら動けるように、交流できる情報を集めておく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4		特定のスタッフだけでなく、色々なスタッフが参加できるようにする
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		積極的に行っている	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	1		まずはスタッフが勉強会にて理解する	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			月一回の会議で方向がきちんと提示される
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	1		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5		重心児、医ケア児の保護者が一同に集まるのは難しい。コロナが落ち着いた際、リモートでの保護者会も含めて検討する
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	3		Facebook以外にも、行事予定が保護者に分かる方法を検討する
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	1	記録を置く固定の場所を作った	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		それぞれのスタッフの個性を生かしてやっている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	小規模なので、こちらがなるべく地域に出ていくように心がけている	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2		毎月1日に行う
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		どんな些細な事でも記入して、スタッフ内で情報共有できるようにする
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1		勉強会を行う回数を増やす
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2		身体拘束を行う事がないが、今後のために対応できるようにスタッフで情報共有を行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。